

**令和2年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業
事業報告**

令和3年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器）」については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す観点から、極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを的確に捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ユーザー側の持つニーズと、開発側が持つシーズのマッチングを目的とし、真に必要な支援機器が開発されるよう意見交換を行える場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会を創出することを目的とした交流会を開催した。

本年度は、新型コロナウイルス感染症等を予防する観点から、出展企業数を減少させ、4日間をWeb開催し、2日間はイベント会場で会場開催を予定した。しかしながら、昨年12月中旬から新型コロナウイルスの感染が再び拡大したことに伴い、当初予定していた一般来場者を招いての2日間の会場開催を取りやめ、Web開催に切り替えることにした。

Web開催では、出展企業・出展機器の紹介動画の掲載、リアルタイムにてセミナーや講演の配信、オンライン上で出展者と来場者が意見交換できるよう、交流プラットフォームを構築し、全国の皆様から来場していただくことができた。

また、本年度のATAサテライト（意見交換会）は、秋田県と栃木県の2県で開催し、地域のニーズを組み取った支援機器のイメージを検討し、Web開催にて成果報告をいただいた。こうした取り組みが地域での支援機器開発につながれば幸いである。

本報告書は、本事業の結果を取り纏めたものであり、事業実施にあたりご協力いただいた障害者当事者の団体及び職能団体、開発支援機関、出展企業等、多くの方々には心から御礼を申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

第1部 本編

1. 目的	6
2. 事業概要	6
(1) 企画委員会の設置	6
(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画	7
(3) Web開催の内容	10
(4) 交流会開催後のフォローアップ	11
(5) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信	11
(6) 実施スケジュール	11
3. 事業結果	13
(1) 企画委員会の開催結果	13
(2) 出展者の募集から決定までのプロセス	13
(3) 交流会の周知	16
(4) 交流会の開催結果	21
(5) A T Aサテライト（意見交換会）の実施結果	34
(6) 参加人数及びアンケート結果	44
(7) 今後の交流会の在り方について	53

第 1 部 本編

シーズ・ニーズマッチング強化事業

1. 目的

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器」）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものである。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ユーザー側が持つニーズと開発側が持つシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する交流会を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することとした。

2. 事業概要

(1) 企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び医療・福祉専門職等から構成する、「シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会」を当協会に設置し、シーズ・ニーズマッチングのコーディネート機能及び体制を構築した。

本委員会では「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行うとともに、より良い交流会の実現に向けた検討を行った。

また、本委員会を構成する障害関係団体には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと。②本交流会において、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

企画委員会 委員名簿

(委員)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤 信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
岸川 忠彦	一般社団法人 日本ALS協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
橋間 信市	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

(オブザーバー)

(敬称略)

氏名	所属
只野 肇	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
伊藤 弘道	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
下田 修	国立研究開発法人科学技術振興機構 起業支援室
田上 未来	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
金子 将直	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズとニーズのマッチング交流会を開催した。

交流会では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設けることとした。

本年度は、新型コロナウイルス感染症等を予防する観点から、出展企業数を例年よりも減少し、「Webによる開催（4日間）」と「東京会場での開催（2日間）」を予定した。

Web開催では、出展企業及び機器の紹介動画を掲載するとともに、オンライン上で出展者と来場者が意見交換したり、リアルタイムでセミナーや講演が視聴できるよう、Web交流プラットフォームを構築した。(Web開催の期間外でもコンテンツを参照できることとし、常時、交流の推進を図ることとした。)

東京会場の開催では、当初、感染症予防等の徹底を図り、開発中の試作機等の展示及びデモンストレーション、意見交換等を予定し、また、併催イベントとして、基調講演、活動報告、開発及び利活用報告、令和2年度の障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業による成果報告会を企画した。

しかしながら、令和2年12月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、東京開催についても感染症予防等の徹底を図るため、Web開催に変更することとした。

本交流会の対象者は以下とした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

シーズ・ニーズマッチング強化事業は、下記の図のとおり、障害者自立支援機器等開発促進事業の一環として実施されるものであり、ニーズに基づいた実用的な支援機器開発が促進されるよう、意見交換を行える場を提供するとともに、モニター評価を行う機会を得ることを狙いとするものでもある。

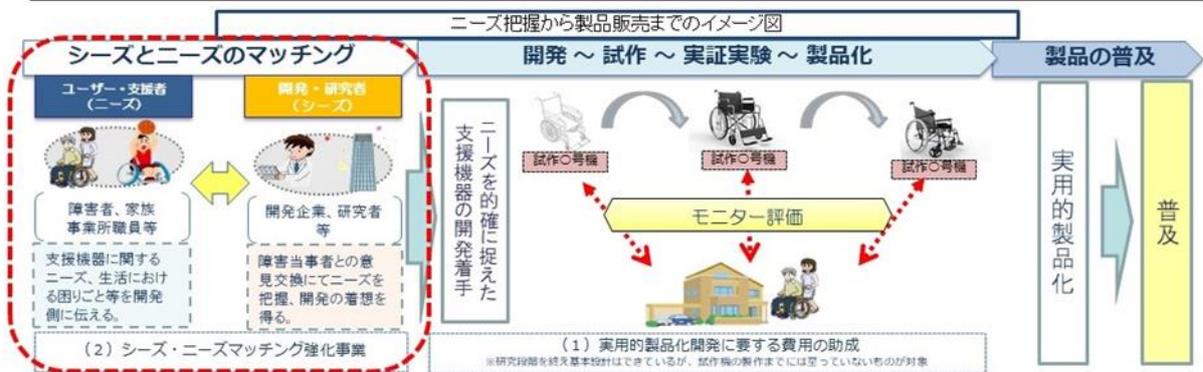
障害者自立支援機器等開発促進事業

事業目的

障害者の自立や社会参加を支援する機器の開発は、マーケットが小さく事業化や実用的製品化が進んでいない状況にある。障害者の機器開発においては、障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングが重要であり、開発企業が障害当事者と連携して開発する取組に対して助成を行うことで、障害者にとって使いやすく適切な価格の機器の実用的製品化を促進する。

事業内容

- (1) 障害者の自立支援機器の開発(実用的製品化)に対する助成
 - ①テーマ設定型事業、②製品種目特定型事業
- (2) シーズ・ニーズマッチング強化事業



①開催日時・場所、併催イベントの概要

Web開催

【開催日】：令和2年12月1日（火）～4日（金） 4日間

【時間】：10:00～17:00

【会場】：テクノエイド協会 シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、オンライン上での意見交換の実施

- ・ 特別講演
- ・ 支援機器の開発及び利用報告
- ・ 【導入編】支援機器においてバイオデザインの手法を活用するセミナー
- ・ ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
- ・ ATAサテライトによる成果報告
- ・ 支援機器開発におけるモニター評価に関する講演

東京開催 → Web開催へ切替

【開催日】：令和3年2月9日（火）～10日（水） 2日間

【時間】：13:00～17:00／9:00～15:00

【会場】：TOC有明 4Fコンベンションホール

【開催イベント内容】：

支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施

- ・ 開発支援機関の事業紹介
- ・ 支援機器の開発及び利用報告
- ・ 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業成果報告
- ・ 【実用編】支援機器においてバイオデザインの手法を活用するセミナー
- ・ ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
- ・ 特別イベント 他

当初は上記のとおり、予定したところであるが、令和2年12月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、東京開催についても感染症予防等の徹底を図るため、Web開催に変更することとし、出展企業等の交流については、本年度構築した、Web交流プラットフォーム上で行うこととした。

②出展企業等の数

出展者を募集するにあたり、Web開催、東京開催の両開催に参加することを条件とし、本年度はどちらか一方の参加を認めないこととした。

出展予定者数：50社（うち開発促進事業の採択企業を含む。）

(3) Web開催の内容

主な内容としては、出展事業・機器を紹介する動画コンテンツの掲載、Zoomを用いた出展者と来場者のオンライン交流の実施、リアルタイムによる講演・セミナーの配信を行った。

①動画コンテンツの掲載について

- 出展企業等一覧は、テキストデータでHP上に表示し、ダウンロードを可能とした。また、動画コンテンツは、本交流会の目的を踏まえた内容と構成に仕上げることで、出展企業及び当事者団体、開発支援機関等の動画コンテンツ（音声付のPowerPointでも可）をWeb上に掲載した。
- 販売目的を中心とする単なる製品PRとならないよう、動画の内容や構成、長さ等を指定し確認することとした。
- 交流会の専用ページ内にWebプラットフォームを設け、作成した動画を東京開催終了まで配信し、シーズとニーズの交流を推進した。

②リアルタイムでの講演の配信

期間中に企画した特別講演及び支援機器の開発、利用報告、事例報告等については、テクノエイド協会の特設スタジオからリアルタイム配信を行うこととした。講演資料等は、専用ページからダウンロード可能とした。

③オンライン交流の実施

オンライン交流ではZoomを使用した交流を行うこととし、出展者ごとにZoomのIDを付与し積極的に活用することで、交流を推進していくこととした。交流のポイントは以下のとおりである。

1. 基本的には、会場開催と同様、出展者等と来場者の1対1で交流が可能。
2. 期間中、都合のよい日時を予め調整することが可能。
なお、東京開催までの間、本システムは活用できるよう配慮することとする。
3. 他の来場者を気にしないで意見を伝えることができる。
4. 出展者の在籍の有無（オンライン中かどうか）が画面上で分かる。



(4) 交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。具体的には、以下の取り組みを行った。

①相談窓口の設置

開発側やユーザー側からの相談に応じる専用窓口を設け、常時対応することとした。

②モニター評価実施にあたっての支援・協力

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図りモニター評価の実施施設や想定するユーザー等を紹介することとした。

具体的には、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用して、開発中の機器や実用化して間近な機器に対して、モニターやアドバイザーにご協力いただける機関（施設や事業所など）を募り、開発企業へ繋ぐこととした。

③ATAサテライト（支援機器に関する意見交換会）の開催

交流会への参加が容易ではない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「ATAサテライト」を開催した。ATAサテライトでは、当該地域の支援機器に関する有識者、障害者とその介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が集い、障害者が置かれている現状を共有化し、かつ技術進歩の動向を踏まえて、課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージを提案した。

今年度は、地域の支援機器に関する有識者等と調整を図り、秋田県及び栃木県の2県において開催することとし、以下の有識者に座長をお願いした。

但し、現地開催が困難な場合には、各座長及び地域の関係者等と協議のうえ、オンラインによる開催とした。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| { | ○ATAサテライト秋田 六平澄人 氏（秋田未来株式会社） |
| | ○ATAサテライト栃木 伊藤勝規 氏（とちぎノーマライゼーション研究会） |

④その他

その他、必要な支援を関係団体等と連携して行こととした。

(5) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を図ることとした。

(6) 実施スケジュール

次ページを参照のこと。

令和2年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業 実施スケジュール(年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
委員会			企画委員会の設置			★第1回 企画委員会(9/2)
交流会			委託先の公募・決定	出展要項の作成・配布(出展企業等の募集期間 7/20-8/14)	講師内話	出展企業等の確定 併催イベント講師等へ正式依頼
A T A						ATAサテライト開催準備
その他					交流会開催のPR	
委員会	10月	11月	12月	令和3年1月	2月	3月
交流会	動画コンテンツの撮影・作成・編集 動画コンテンツの作成・編集 交流会HPの作成、テストサイト確認、本談サイト確認 開催パンフ、運営マニュアルの作成 パンフレット印刷及び配布	出展者事前説明会	◎Web開催 12/1-4	シーズ・ニーズの交流	◎東京開催 2/9-10	★第2回 企画委員会(3/10)
A T A	○第1回ATAサテライト(栃木) ○第1回ATAサテライト(秋田)	○第1回ATAサテライト(栃木) ○第1回ATAサテライト(秋田)	成果報告			
その他			ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信			事業報告の作成

3. 事業結果

(1) 企画委員会の開催結果

「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

①第1回シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和2年9月2日（水）14：00～15：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

- ・本事業の概要について
- ・交流会「出展企業等」の募集及び選定結果について
- ・交流会開催の日程表（案）Web開催、東京開催
- ・動画等の作成にあたって
- ・Web開催に伴う交流の実施方法について
- ・ATAサテライトの実施について
- ・今後のスケジュール

②第2回シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和3年3月10日（水）14：00～15：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

- 報告事項
 - ・本事業の概要について
 - ・出展企業等の募集から決定
 - ・交流会の周知について
 - ・交流会の企画及び併催イベントの開催結果
 - ・ATAサテライト（意見交換会）の実施結果
 - ・参加人数及びアンケート結果
- 検討事項
 - ・今後の交流会等の在り方について（意見交換）

(2) 出展者の募集から決定までのプロセス

①企業等の募集について

募集は「シーズ・ニーズマッチング交流会「出展企業等」募集要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。また、出展申込書は当協会のホームページ内に設けた本交流会の専用ページからダウンロードできるようにした。

②募集の期間

令和2年7月20日（月）～8月14日（金）17時必着

③周知の方法

a. 郵送

- ・ 発送数 : 1,835カ所
- ・ 主な送付先 :

過去の開発促進事業応募企業
過去のシーズ・ニーズマッチング交流会出展及び来場企業
福祉用具情報システム(TAIS)登録企業(抽出)
介護ロボット関連企業 都道府県・政令市 報道機関、地方産業組織 等

b. 専用ホームページの開設

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

Welcome to association for technical aids' home page

協会紹介 アクセス リンク著作権・免責事項 個人情報保護方針 情報公開 賛助会員 リンク集 事業一覧 各種システム 調査研究

障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング強化事業

2019年はこちら 2018年はこちら 2017年はこちら 2016年はこちら 2015年はこちら 2014年はこちら

お知らせトピックス [ページの先頭へ](#)

- 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」の目的
- シーズ・ニーズマッチング交流会2020 開催概要
- 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2018及び2016」開催記録
- お問い合わせ先
- 出展申込みを希望される企業の方 **NEW!!**

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」の目的 [ページの先頭へ](#)

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と、開発企業、大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。
※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

シーズ・ニーズマッチング交流会2020 開催概要 [ページの先頭へ](#)

みんなで考えよう! 障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」
～作る人と使う人の交流会～

【Webによる開催】 2020年12月1日(火)～4日(金) 10:00～17:00	【東京開催】 2021年2月9日(火)～10日(水) 13:00～17:00/9:00～15:00
---	--

会場 : テクノエイド協会のホームページ

会場 : IO有明4F コンベンションホール
アクセス : りんかい線「国際展示場」
ゆりかもめ「東京ビッグサイト駅」
ゆりかもめ「有明駅」

出展申込みを希望される企業の方 [ページの先頭へ](#)

- 出展事項 (PDF形式:1.1MB)
- 公募期間 **令和2年6月14日(金) 17:00必着**
- 出展申込書 (WORD形式:26KB)

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2018及び2016」開催記録 [ページの先頭へ](#)

- 【開催記録はこちら】
「シーズ・ニーズマッチング交流会2018」記録動画



お問い合わせ先 [ページの先頭へ](#)

【交流会の全体について】
公益財団法人テクノエイド協会 企画部
企画部 宇田川・藤・五島
電話番号 03-3266-6883

【出展に関すること】 受付時間:平日9時～17時
MS&ADインターリスクリサーチ株式会社 内
シーズ・ニーズマッチング交流会2020 運営事務局
担当: 岡田、志賀
メールアドレス: shogai-kiki2@techno-aids.or.jp
電話番号 03-5296-8976

c. 福祉用具情報システム（T A I S）登録企業に対する周知

T A I Sに登録されている国内の福祉用具製造事業者・輸入事業者、約800社の担当社に対して、電子メールにて周知した。（令和2年7月21日実施）

d. 障害関係団体等へ周知のご協力

企画委員が所属する障害関係団体を通じて、交流会の開催の周知及び開発企業のご紹介をいただいた。

e. 開発支援機関からの開発企業のご紹介

開発支援機関にご協力をいただき、開発企業をご紹介いただいた。

なお、本年度より国立研究開発法人科学技術振興機構（J S T）産学連携展開部にも声掛けをし、ご紹介いただくこととした。

④出展企業の選定及び選定結果について

全74件の応募があった。

応募のあった企業について、事務局では以下の観点及び障害の種別等を勘案し、全50企業等の選定を行った。

（選考にあたっての観点）

- ・ 交流会の目的及び要件に合致しているか
- ・ 新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- ・ 採択又は推薦があるか
- ・ 動画等を作成することができ、希望する交流の内容が明確となっているか

【応募及び選考結果】

分野毎の内訳は、以下のとおりである。

出展企業総数は50社となり、その内新規出展機器数としては38点となった。

新規性の割合としては76%で過半数以上が新規性の出展機器となった。

対象障害種別	応募	選定
身体障害(肢体不自由)	46	30
視覚障害	10	9
聴覚障害	5	3
高次脳機能障害(失語症等)	3	3
精神障害(発達障害を含む)	2	0
障害児(身体・知的・精神)	8	5
計	74	50

出展企業 総数	新規 出展者数	新規 出展機器数	新規性の割合
50社	15社	38点	76%

(3) 交流会の周知

①交流会専用のホームページの開設

【期間】令和2年7月21日(火)～

【周知方法】協会ホームページより順次最新情報になるよう更新を行った。

- ・ 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2020」の目的
- ・ シーズ・ニーズマッチング交流会 2020 の開催概要
- ・ 出展機器一覧 (Web&東京開催)
- ・ Web開催のプログラム
- ・ 東京開催のプログラム
- ・ 公式パンフレット、チラシの掲載
- ・ ATAサテライト(意見交換会)開催のご案内
- ・ セミナー参加申し込みフォーム
- ・ 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2018 及び 2016」開催記録
- ・ お問い合わせ窓口

<専用サイトの画面> <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

<協会HPトップのバナー及びお知らせトピックにて最新情報を提供>



みんなで考えよう! 障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」 ～作る人と使う人の交流会～

お知らせトピックス

[ページの先頭へ](#)

- [障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」の目的](#)
- [シーズ・ニーズマッチング交流会2020 開催概要](#)
- [交流会プログラム](#) **NEW!!**
- [出展機器一覧 \(Web&東京開催\)](#) **NEW!!**
- [Web開催のプログラム](#) **NEW!!**
- [東京開催のプログラム](#) **NEW!!**
- [意見交換会 \(ATAサテライト\) 開催のご案内](#) **NEW!!**
- [障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2018及び2016」開催記録](#)
- [出展申込みを希望される企業の方](#)
- [お問い合わせ先](#)

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」の目的

[ページの先頭へ](#)

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と、開発企業、大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

【Webによる開催】

2020年12月1日(火)～4日(金)
10:00～17:00

Web会場のお申込みはこちら

Web会場はこちら

『バイオデザインからニーズの探索・
深掘りの重要性を理解する』
セミナーのお申し込みはこちら

チラシのダウンロードはこちら

【東京開催】

2021年2月9日(火)～10日(水)
13:00～17:00/9:00～15:00

東京会場のお申込みはこちら
【近日公開予定】

会場 : TOC有明4F コンベンションホール

アクセス : りんかい線「国際展示場駅」
ゆりかもめ「東京ビッグサイト駅」
ゆりかもめ「有明駅」



※地図をクリックすると、拡大された地図が表示されます。

【公式交流会パンフレットはこちら】

パンフレットデータ
(PDF)

【チラシはこちら】

チラシデータ
(PDF)

	Web開催	東京開催
1. 日付	令和2年12月1日(火)～4日(金) (4日間)	令和3年2月9日(火)～10日(水) (2日間)
2. 時間	10:00～17:00	13:00～17:00 / 9:00～15:00
3. 会場		TOC有明 4Fコンベンションホール
4. 住所	テクノエイド協会のHP上で交流会を開催!! ※期間中、オンラインを活用してマッチングを集中的に行 う※	〒135-0063 東京都江東区有明3-5-7
5. アクセス		ゆりかもめ「東京ビッグサイト駅」 りんかい線「国際展示場駅」
6. 開催概要	○支援機器に係る「ニーズ」と「シーズ」のマッチングを目的とした交流 ○特別講演をはじめ、事例報告や成果報告 ○出展企業等とオンラインを活用して意見交換や交流の推進	
7. 参加費	無料 (ただし、簡易な入室登録を必須とする)	無料
8. 出展社数	50社 (うち開発促進事業採択企業9社)	
9. 招待団体・機関	障害当事者団体9団体 / 開発支援機関 5機関 合計14機関	
	<p style="text-align: center;">オンライン配信</p> <p>1. 特別講演 (各60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○厚生労働省社会援護局障害保健福祉部 部長 赤澤 公省 氏 ○福祉工学専門官 田上 未来 氏 ○藤田医科大学 学長 才藤 栄一 氏 ○静岡県立大学 教授 石川 准 氏 ○松永製作所 代表取締役社長 松永 紀之 氏 <p>2. 支援機器の開発及び利用報告 (各30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出展企業8社による発表 	<p>1. NEDO、NICT、JST 事業紹介 (各10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開発支援機関による開発等に関する助成事業紹介 <p>2. 支援機器の開発及び利用報告 (各30分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出展企業2社による発表 <p>3. 令和2年度 障害者自立支援機器等開発促進事業の成果報告 (各15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○採択企業9社による成果報告

継続セミナー

10. 期間中のイベント	4日間	<p>3. バイオデザインからニーズの探索・深掘りの重要性を理解する (90分)</p> <p>○厚生労働省社会援護局障害保健福祉部 福祉工学専門官 田上 未来 氏</p> <p>○株式会社ライフトゥデイ 代表取締役 (医師) 原 陽介 氏</p> <p style="text-align: center;">セミナーのお申し込みはこちら</p> <p style="text-align: center;">※聴講には事前申込が必要です。</p>	<p>4. ニーズを踏まえた支援機器開発 (60分)</p> <p>※オンラインによる開催</p> <p>バイオデザインからニーズの探索・深掘りの重要性を理解する</p> <p>○株式会社ライフトゥデイ 代表取締役 (医師) 原 陽介 氏</p>
		<p>4. ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談 (各20分)</p> <p>○交流会企画委員9団体による発表</p> <p>5. こんな福祉機器の開発を!</p> <p>ATAサテライト成果報告 (各20分)</p> <p>○栃木・秋田の座長による発表</p> <p>6. 支援機器開発におけるモニター評価に関する講演 (40分)</p> <p>○支援技術開発機構 理事長 山内 繁 氏</p>	<p>5. 特別イベント</p> <p>○3Dプリンターを使用した自助具製作で大切なこと</p> <p>「3Dプリンティング技術を活用した協同型支援機器提供システムの取組み」 (40分)</p> <p>日本福祉大学 教授 渡辺 崇史 氏</p> <p>「多様な個性に対応した自助具製作について」 (仮称) (40分)</p> <p>国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発室長 硯川 潤 氏</p> <p>○障害者等に配慮した自動運転バスの提案 (60分)</p> <p>NEDO ロボット・AI部 プロジェクトマネージャー 林 成和 氏</p> <p>NTTデータ経営研究所 マネージャー 足立 圭司 氏</p> <p>○福祉工学カフェ (60分)</p>
※動画等を用いた交流から、会場開催を活性化する※			
11. 動画配信・オンライン交流	<p>○動画の配信・閲覧</p> <p>○各種イベントのライブ配信予定</p> <p>○オンラインによる交流・マッチング、打合せ会の開催</p>		<p style="text-align: center;">試作機等の展示</p> <p>○試作機を前に交流や意見交換の実施</p>

● [出展機器一覧 \(Web&東京開催\)](#)

[ページの先頭へ](#)

● [出展機器一覧はこちら \(PDF形式\)](#)

● [出展機器一覧はこちら \(Excel形式\)](#)

- 出展企業とは、Web会場で交流できます。
 - 希望する方は、オンラインでWeb会場へお進みください。【[Web会場はこちら](#)】
- 東京開催では、実機が会場に展示されます。
 - 東京会場へお越しになる場合は、事前申し込みにご協力ください。【[近日公開予定](#)】

<YouTubeによる動画配信>

シーズ・ニーズマッチング交流会がこういった雰囲気で行われるのか等の交流会のイメージが初めての方でも理解していただけるよう、過去に開催した交流会の動画をYouTubeにより閲覧できるようにした。

②チラシ及び公式パンフレットの作成、配布

【期間】：令和2年11月上旬～

【周知方法】：公式パンフレットを作成し障害団体、施設、開発企業など幅広く周知した。

【送付物】：公式パンフレット、交流会チラシ、セミナー申込書

【主な送付先】約6440カ所

- 障害団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体 等）
- 開発企業（過去の採択企業、TAIS登録企業、過去の交流会出展企業 等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（都道府県の理学療法士協会、作業療法士協会事務局）
- 介護実習・普及センター
- 全国のリハビリテーションセンター
- 全国の更生相談所
- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所
- 特別支援学校等
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

計 6,440カ所・部

③関係団体への周知

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ交流会開催を周知した。主な周知先は以下のとおりである。

- アシスティブ・プロダクツ（当協会発行機関紙）：交流会の開催情報を掲載し、各種関係団体・企業等へ広く周知
- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙、HPへの掲載
- 独立行政法人福祉医療機構WAM：イベントセミナーHPに掲載
- JASPA：会員へ周知のお願いを実施
- 一般社団法人日本義肢装具学会：会員へ周知のお願いを実施
- 日本義肢協会：関係者各位へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、HPに掲載
- 日刊工業新聞：関係者各位へメールマガジンにて周知のお願いを実施
- 福祉新聞：開催情報を掲載
- 厚生労働省：Facebook、Twitter、厚生労働（雑誌）より周知

④ イベント開催時における広報活動

イベントの場を活用して公式パンフレット・チラシを配布し、周知を行った。
主な周知先は以下のとおりである。

○ATAサテライト（意見交換会）

意見交換会参加者へ開催の告知、チラシ、パンフレットの配布を行った。

- 【栃木開催】 第1回 令和2年10月28日（水）
第2回 令和2年11月18日（水）
- 【秋田開催】 第1回 令和2年10月29日（木）
第2回 令和2年11月19日（木）

【公式パンフレット、チラシ】

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング
交流会2020
みんなで考えよう！
作る人と使う人の交流会
入場無料
入退場自由

Web開催
令和2年 12月1日(火)~4日(金) 10:00~17:00
テクノイド協会 交流会専用サイト

東京開催
令和3年 2月9日(火)・10日(水) 13:00~17:00
9:00~15:00
TOC有明4F コンベンションホール

Web開催イベント内容
Webによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、Zoomによる意見交換の実施
特別講演
支援機器の発注及び利用報告
支援機器においてバイオデザインの手法を活用する
ニーズの発掘と支援機器活用の好事例と失敗談
ATAサテライトによる成果報告
支援機器開発におけるモニター利用

東京開催イベント内容
支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施
開発支援機器の事前紹介
支援機器の発注及び利用報告
令和2年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 成果報告
ニーズを踏まえた支援機器開発 ※オンライン開催
特別イベント 他

対象者
ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、民間・福祉従事者 等
シーズ側 開発メーカー、企業関係団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関 等

公益財団法人テクノイド協会
The Association for Technical Aids (ATA)
本事業は「令和2年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。
詳しくはテクノイド協会 交流会専用サイトまで

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

交流専用サイト

【セミナーチラシ】

参加無料
申込受付締め切り2020年11月27日(金)
令和2年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業
シーズ・ニーズマッチング交流会2020 併催イベント
Zoomオンラインセミナー

バイオデザインから
ニーズの探索・深掘りの重要性を理解する
※中小企業から新たに新規事業として立ち上げる事業の担当者、起業を考えている支援機器開発実績のある人材、大学・研究所・高専からスタートアップ・ベンチャーを目指す人材・企業
対象：支援機器開発に興味のある方

【導入編】
2020年12月1日(火)
13:40~15:10
第1部 (13:40~14:10)
「支援機器開発における行政の課題と解決策～ニーズの課題と重要性～」

【実用編】
2021年2月10日(水)
10:00~11:00
基調講演 2
「バイオデザインを応用した効果的な支援機器のニーズ探索・開発プロセス」

講師 田上 未来
厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 企画課
自立支援企画室
福祉工学専門官

講師 原 陽介
株式会社 ライフトゥデイ
代表取締役
ジャパンバイオデザイン
アシスタントファカルティ
東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科
医師 医学博士

第2部 (14:10~15:10)
基調講演 1
「バイオデザインにおける
ニーズ探索手法」
講師 原 陽介
株式会社 ライフトゥデイ
代表取締役
ジャパンバイオデザイン
アシスタントファカルティ
東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科
医師 医学博士

※こちらのセミナーは12月1日のセミナーの
継続セミナーです。

お問い合わせ
公益財団法人テクノイド協会 企画部
TEL: 03-3266-6883
メールアドレス shogai-kiki@techno-aids.or.jp
HP: http://www.techno-aids.or.jp/

公益財団法人テクノイド協会
The Association for Technical Aids (ATA)

(4) 交流会の開催結果

令和3年2月9日(火)～10日(水)東京開催においては、令和2年12月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、会場に一般来場者を招いて開催することを取りやめることとした。

予定しているセミナーについては、ZOOMを活用してオンライン配信することとし、出展企業等との交流については、今回構築したWeb交流プラットフォームを活用してオンライン上で行うこととした。

開催内容は以下のとおりである。

○Web開催

【開催日】：令和2年12月1日(火)～4日(金) 4日間

【時間】：10:00～17:00

【会場】：テクノエイド協会 シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、オンライン上での意見交換の実施

- ・ 特別講演
- ・ 支援機器の開発及び利用報告
- ・ [導入編] 支援機器においてバイオデザインの手法を活用するセミナー
- ・ ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
- ・ A T Aサテライトによる成果報告
- ・ 支援機器開発におけるモニター評価に関する講演

※バイオデザインのセミナーを除き、インターネット上でリアルタイム配信した。

○東京開催(オンライン開催へ切替)

【開催日】：令和3年2月9日(火)～10日(水) 2日間

【時間】：13:00～17:00/9:00～15:00

【会場】：テクノエイド協会 シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイト

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、オンライン上での意見交換の実施

- ・ 開発支援機関の事業紹介
- ・ 支援機器の開発及び利用報告
- ・ 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業成果報告
- ・ [実用編] 支援機器においてバイオデザインの手法を活用するセミナー
- ・ ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
- ・ 特別イベント 他

※ZOOMを活用しオンライン配信を行った。

なお、令和2年12月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、東京開催についても感染症予防等の徹底を図るため、Web開催に変更

することとした。

開催方法の変更については、交流会の参加を希望する事前登録者及び、協会HPのお知らせ欄にて周知を行った。

①交流会の申込について

Web開催及び東京開催では、来場者情報の把握・アンケートの実施をするため、且つなるべく障害当事者等の方々の入場のハードルが高くならないよう、「名前（ニックネーム可）」及び「メールアドレス」の情報の登録で入場できることとした。また、Web開催から東京開催までは共通の情報でログインできるようにした。

<参加申し込み画面>

シーズ・ニーズマッチング交流会2020 Web開催参加申込

ご入力 ご確認 完了

交流会（Web）への参加申込みを受け付けております。
必要事項をご記入の上、「入力内容の確認画面へ」を押してください。

ニックネーム 必須

メールアドレス 必須

メールアドレス（確認） 必須

[入力内容の確認画面へ](#)

<東京開催のログイン画面>

● 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2020」の目的 [ページの先頭へ](#)

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側（ニーズ）」の方々と、開発企業、大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側（シーズ）」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。
※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

● シーズ・ニーズマッチング交流会2020 開催概要 [ページの先頭へ](#)

※新型コロナウイルスの感染が全国に拡大していることから、東京開催もWebによる開催に変更させていただきました。

【Webによる開催】 2020年12月1日（火）～4日（金） 10:00～17:00	【東京開催】 2021年2月9日（火）～10日（水） 13:00～17:00/9:00～15:00
---	--

● Web参加の登録はこちら（無料）
※既に登録している方は不要です。

Web開催交流プラットフォーム
出展企業や関係団体とのマッチング交流は [こちら](#)

②Web交流会プラットフォームについて

プラットフォームでは、出展企業・機器を紹介する動画コンテンツの掲載、Zoomを用いた出展者と来場者のオンライン交流の実施、リアルタイムによる講演・セミナーの配信を行った。Web開催から東京開催終了までの期間はログイン可能とした。

<Web開催プラットフォーム画面>

<東京開催プラットフォーム画面>

	対象障害種別	企業・団体名	製品名	型番	製品概要	製品画像
a-01	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	株式会社QDレーザ	網膜投影型視覚支援機器 "Retissa Super Capture"	QLEWS08	網膜投影技術の焦点フリーとデジタルカメラの特性を融合して、網膜症の方も支援できる視覚機器。	
	A. 令和2年度				スマートフォン+スマートグラスにより周囲の	

出展各社のページでは、出展者及び出展機器の情報を纏めた動画を掲載した。なお、動画の音声情報を取得できない方のため、Excelで作成した「情報保護シート」を掲載した。シートには動画の概要を記載し、視覚情報からも支援機器の情報を取得できるようにした。

<出展者ページ画面>

シーズ・ニーズマッチング交流会2020 Web交流プラットフォーム

A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業 採択企業

株式会社QDレーザ

網膜投影技術の焦点フリーとデジタルカメラの特性を融合して、網膜症の方も支援できる視覚機器。



出展者情報

所在地：210-0855
神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1
京浜ビル
[アクセスMAP](#)

[情報保護シートダウンロード](#)

【情報保護シート】
出展者紹介動画の内容を本シートにまとめております。
上部ボタンをクリックしてダウンロードいただき、
動画と併せてご覧ください。

Web交流の連絡先

担当部署:視覚情報デバイス事業部
担当者氏名:中村 学
TEL:044-328-6808
FAX:044-333-3308
E-mail:merit@qdlaser.com

希望する交流内容

共同開発（研究）先の探索。
国内外のユーザーに届ける際のパートナーの探索。
出展機器を試用し評価のフィードバック出来る企業、団体、病院との交流。

出席 交流する

クリックするとビデオ会議 (Zoom)につながります

上記ボタンは担当者の**出席状況** (連絡の取りやすさ) を表しています。【出席】表示であっても、必ず右記のとおり事前に**担当者へ交流したい旨**をご連絡ください

? オンライン交流のやり方はこちら

オンライン交流の流れ

担当者の出席状況を確認してください

担当者へ交流したい旨を連絡して下さい (電話もしくはメール)

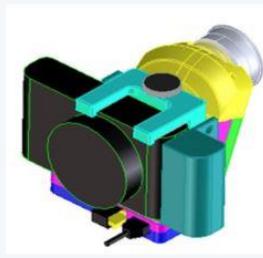
担当者でwebで交流する日時を調整してください

約束の時間になりましたら左記の【交流する】を押してください

交流

出展機器

出展機器	網膜投影型視覚支援機器 “Retissa Super Capture”
型番	QLEWS08
機器の概要	機器構成は、 ・光学高倍率ズーム撮影可能なデジタルカメラ ・小型レーザ走査プロジェクト ・網膜投影接眼光学系 の3つのブロックからなる。 カメラが捉えた前景は、画像光として使用者の瞳孔中心を通過して網膜に届けられる。細い光が水晶体の中心を通る事から、視力の影響を殆ど受けず、クリアで焦点フリーな画像を提供する。加えて、任意の倍率を選択できる事で随意性を向上し、当事者の視機能支援に貢献する。



24

その他、出展者の連絡先、希望する交流内容を明記することで交流の目的を明確化することとした。

Zoomを使ったオンライン交流では、担当者が「在籍」又は「離席」しているかが視覚的に分かるように表示し、出展者へ連絡を取ったうえで交流を進めていただくこととした。また、Zoomの機能は交流会会期中のみだけでなく、Web開催開始から東京開催終了まで解放することとし、必要に応じて出展企業が自由に利用できるよう交流の場を設けることとした。

<出展者一覧画面>

シース・ニーズマッチング交流会2020 Web交流プラットフォーム						
シース・ニーズマッチング交流会2020 出展企業一覧						
	対象障害種別	企業・団体名	製品名	型番	製品概要	製品画像
a-01	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	株式会社QDレーザ	網膜投影型視覚支援機器 “Retissa Super Capture”	QLEWS08	網膜投影技術の焦点フリーとデジタルカメラの特性を融合して、網膜症の方も支援できる視覚機器。	
a-02	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	株式会社コンピュータサイエンス研究所	アイナビ	-	スマートフォン+スマートグラスにより周囲の情報提供と目的地まで道案内を行う視覚障害者向け支援システム	
a-03	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	シエルエレクトロニクス株式会社	排泄支援装置	esコート	自己導尿や褥瘡の確認時に直接見づらい部位を手持ちのスマホ等に映し出すカメラサポートシステムです。	
a-04	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	一般社団法人ハートウェアラボ	ウェアラブル指文字ツール “yubitt”	-	見えなくて聞こえず話せない「盲ろう者」の災害時意思疎通支援、双方向遠隔指文字ツール	
a-05	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	BionicM株式会社	パワード義足	-	モーターを動力源として、膝関節を能動的に屈曲伸展し、ユーザーの動きをアシストする膝継手。	
a-06	A. 令和2年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究会	低年齢向け訓練用筋電義手	-	小児筋電義手訓練における訓練用具。日常生活で活かせるよう筋電義手と食事	

③併催イベント結果

Web開催プログラム(予定)

12月1日(火)～4日(金) 10:00～17:00 ※オンライン配信

1日目		12月1日(火曜日)	
10:10	開会・挨拶 ※動画等を活用した交流の進め方	テクノエイド協会 理事長	大橋 謙策
10:30	特別講演		
11:30	障害者自立支援機器開発における現状と課題	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 部長 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官	赤澤 公省氏 田上 未来氏
11:40	支援機器の開発及び利用報告		
11:40 12:10	① 歩行・起立着座・階段昇段をアシストする“着る”ロボットcurara®	AssistMotion株式会社	橋本 稔氏
13:00 13:30	② YourEyes	株式会社ポニーキャニオン	黒澤 格氏
13:40	(導入編)支援機器開発においてバイオデザインの手法を活用する		
13:40 14:10	① 支援機器開発における行政の課題と解決策 ～ニーズの課題と重要性～	厚生労働省 福祉工学専門官	田上 未来氏
14:10 15:10	② 基調講演1 バイオデザインにおけるニーズ探索手法	株式会社ライフトゥデイ 代表取締役(医師)	原 陽介氏
15:20	ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談		
15:20 15:40	① 日本視覚障害者団体連合		逢坂 忠氏
15:50 16:10	② 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会		小川 光彦氏
16:20	支援機器開発におけるモニター評価		
16:20 17:00	① 実証場面における被験者の保護	支援技術開発機構 理事長	山内 繁氏



2日目

12月2日(水曜日)

10:30	特別講演
	生活を支える活動支援機器 特にロボットの開発
11:30	藤田医科大学 学長 才藤 栄一氏
11:40	支援機器の開発及び利用報告
11:40	① 運転補助装置を自ら設計開発 小島式アクセルアシスト装置
12:10	小島 一朗氏
13:00	② 「ただの棒ではありません! 自立支援用手すり『ラ・クリップ』」
13:30	株式会社東海技研工業 安江 宏氏
13:40	事務局だより
13:40	① Webを活用した意見交換の進め方
14:10	テクノエイド協会 五島 清国
15:20	ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
15:20	① 全国脊髄損傷者連合会 安藤 信哉氏
15:40	
15:50	② 日本ALS協会 岸川 忠彦氏
16:10	
16:20	ATAサテライトによる成果報告
16:20	① こんな福祉機器の開発を! ATAサテライト(栃木県)報告
16:40	座長 とちぎノーマライゼーション研究会 伊藤 勝規氏

3日目

12月3日(木曜日)

10:30	特別講演
	支援機器開発に求められるもの
11:30	静岡県立大学 教授 石川 准氏
11:40	支援機器の開発及び利用報告
11:40	① 携帯版、直感的なタッチで会話を楽しむ
12:10	株式会社日立ケーイーシステムズ 松浦 美紀彦氏
13:00	② タブレット版「運転基礎能力トレーニング」が目指すもの
13:30	株式会社PRIDIST 三田村 もな美氏
13:40	事務局だより
13:40	① 自立を支援する自助具
14:10	テクノエイド協会 宇田川 竜吾
15:20	ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談
15:20	① ポリオの会 小山 万里子氏
15:40	丸橋 達也氏
15:50	② 日本失語症協議会 園田 尚美氏
16:10	
16:20	ATAサテライトによる成果報告
16:20	① こんな福祉機器の開発を! ATAサテライト(秋田県)報告
16:40	座長 秋田未来株式会社 六平 澄人氏

4日目

12月4日(金曜日)

10:30

特別講演

ニーズを踏まえた支援機器開発

株式会社松永製作所 代表取締役社長 松永 紀之氏

11:30

支援機器の開発及び利用報告

11:40

① チャレンジ! 両手・片手両用車いすの実現を目指して

合同会社ライフスペース研究所 齊藤 徹氏

11:40

12:10

② 生活機能の獲得を支援するクラウド・サービス:ライフスキル

レデックス株式会社 五藤 博義氏

13:00

13:30

事務局だより

13:40

① これまでに寄せられたニーズ

テクノエイド協会 篠 明子

13:40

14:10

ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談

15:20

① 全国盲ろう者協会

橋間 信市氏

15:20

15:40

② ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会

増澤 高志氏

15:50

16:10

③ 在宅生活を支援する福祉機器

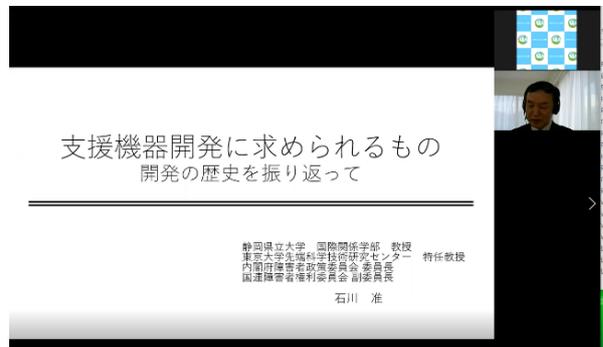
身体障害者支援施設れいんぼう川崎 小磯 さおり氏

16:20

16:40

17:00

閉会・挨拶 (東京開催に向けて)



東京会場プログラム(予定)

2月9日(火) 13:00~17:00、2月10日(水) 9:00~15:00

1日目

2月9日(火曜日) 13:00~17:00

WEST 会場

13:30

事業紹介 [各10分]

13:30

① NEDO福祉事業のご紹介 ~福祉用具実用化開発の支援~

NEDO イノベーション推進部 主査 只野 肇氏

13:45

② 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度のご案内

NICT 情報バリアフリー推進室 室長 伊藤 弘道氏

14:00

③ JSTの産学連携事業と福祉機器開発事例

JST 起業支援室 下田 修氏

15:00

支援機器の開発及び利用報告 [各30分]

15:00

① 社会的自立のための文字と音声による円滑なコミュニケーション支援

株式会社フィート 有光 哲彦氏

15:35

② 画像聴覚化装置を用いる視覚障害者の絵画鑑賞について ー共感する美術館の提案ー

株式会社画像聴覚化研究所 黒田 昌弘氏

2日目

2月10日(水曜日) 9:00~15:00

WEST 会場

10:00

特別イベント [各60分]

10:00

① 【実用編】基調講演2 ※オンラインによる配信

バイオデザインを応用した効果的な支援機器のニーズ探索・開発プロセス

株式会社ライフトゥデイ 代表取締役(医師) 原 陽介氏

ニーズ探索手法における医療機器開発との相違点や支援機器開発に用いる際の特徴点・注意点など、令和元年度推進事業成果(フローチャート)を用いて、支援機器開発に新規参入する企業とその人材が、開発着手する際に効率よく事業を進めるための方策について解説いただく。

13:30

② 福祉工学カフェ(2020年度第3回目) ※オンライン併用

「誰かのために作られた」"新しい福祉機器"を開発する
NEDOイノベーション推進部・国立障害者リハビリテーションセンター研究所

2020年度は視覚聴覚化に関する行を主な対象として、第1回目に行ったニーズ視点と第2回目に行ったシース視点での議論を振り返り、双方の一致点と乖離点を整理することで今後の支援機器開発へ活かしていただく。

中止になりました

福祉工学カフェ・事務局の都合により中止となりました。

15:00

閉会

1 日目

2月9日(火曜日) 13:00~17:00

EAST 会場

厚生労働省 令和2年度 障害者自立支援機器等開発促進事業

成果報告会 [各15分]

13:30

- 13:30 ① 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
- 13:50 ② 障害者の能動的な運動・活動を促すコンピューターグラフィックを利用したレクリエーションエクササイズの開発
学校法人藤田医科大学
- 14:10 ③ 視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの開発
株式会社コンピュータサイエンス研究所
- 14:30 ④ 高精細音響技術を活用した携帯型対話支援システムの開発
ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
- 14:50 ⑤ 網膜投影型視覚支援機器の開発
株式会社QDレーザ
- 15:10 ⑥ 在宅向け排泄支援装置
シェルエレクトロニクス株式会社
- 15:30 ⑦ 成長対応ができる拡張性、認証を取得した安全性、公費で補完できる価格帯の障がい児向けチャイルドシートの開発
株式会社ミクニライフ&オート
- 15:50 ⑧ 下肢切断者のモビリティを向上させるパワード義足膝継手の開発
BionicM株式会社
- 16:10 ⑨ 盲ろう者支援ウェアラブル意思疎通機器
一般社団法人ハートウェアラボ

2 日目

2月10日(水曜日) 9:00~15:00

EAST 会場

特別イベント

3Dプリンターを使用した自助具製作で大切なこと

10:00

- 10:00 ① 「3Dプリンティング技術を活用した協同型支援機器提供システムの取組み」
日本福祉大学 教授 渡辺 崇史氏

10:40

10:40

10:40

11:20

「多様な個性に対応した自助具製作について」仮称

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発室長 硯川 潤氏

13:30

14:30

- ② 交通制約者に優しい自動運転バスに係る基礎調査
障害者等に配慮した自動運転バスの提案

NEDO ロボット・AI部 プロジェクトマネージャー 林 成和氏
株式会社 NTT データ経営研究所 マネージャー 足立 圭司氏

15:00

閉会

④併催イベント結果（バイオデザインセミナー）

【開催目的】

医療機器開発で実績を挙げているバイオデザインのニーズ探索手法から、支援機器開発におけるこれまでのニーズ探索のあり方を振り返り、真のニーズ探索手法の重要性に対する気づきを与えることを目的とする。

【セミナー構成】

1. 導入編 Web開催2020年12月1日（火）13：40～15：10（90分）
2. 実用編 東京開催2021年2月10日（水）10：00～11：00（60分）

【実施方法】

- ・講演スタイルとした。
- ・事前申込制とし、参加者からの事前質問を受付し、当日回答する構成とした。
- ・両開催共にZoomを使用したオンラインによるライブ配信とした。
- ・導入編及び実用編の2部構成とし、基本的に導入編を受講した方を実用編の受講資格とすることとした。

【セミナー対象者】

- ・新規参入企業（スタートアップ・ベンチャー企業含む）
- ・中小企業から新たに新規事業として立ち上げる事業の担当者、起業を考えている支援機器開発実績のある人材、大学・研究所・高専からベンチャーを目指す人材とした。

【セミナー内容】

- a. 12月1日（火）導入編「支援機器開発においてバイオデザインの手法を活用する」
 - ・第1部13：40～14：10（30分）

講演者：厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部 企画課
自立支援振興室 福祉工学専門官 田上未来 氏

講演タイトル：『支援機器開発における行政の課題～ニーズの課題と重要性～』

内容：
なぜニーズ探索が必要なのか。現状の支援機器開発におけるニーズの課題を提示し、バイオデザインにおけるニーズ探索手法に着目した課題解決への取組について
 - ・第2部14：10～15：50（40分）

講演者：株式会社ライフトゥデイ 代表取締役
ジャパンバイオデザインアシスタントファカルティ
東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 医学博士 原陽介 氏

講演タイトル：基調講演1『バイオデザインにおけるニーズ探索手法』

内容：
バイオデザイン手法とは何か。医療機器開発での実績から、バイオデザインのニーズ探索手法がもたらす支援機器開発における課題解決の可能性について
 - ・15：50～15：10（20分）

原講師及び田上専門官による事前質問に対する回答

- b. 2月10日(水) 実用編「支援機器開発においてバイオデザインの手法を活用する」
 ・ 10:00～10:40(40分)

講演者：株式会社ライフトゥデイ 代表取締役

ジャパンバイオデザインアシスタントファカルティ

東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 医学博士 原陽介 氏

講演タイトル：基調講演2 『バイオデザインを応用した効果的な支援機器のニーズ探索・開発プロセス』

内容：ニーズ探索手法における医療機器開発との相違点や支援機器開発に用いる際の特徴点・注意点など、令和元年度推進事業成果(フローチャート)を用いて、支援機器開発に新規参入する企業とその人材が、開発着手する際に効率よく事業を進められるための方策について

- ・ 10:40～11:00(20分)

原講師及び田上専門官による事前質問に対する回答

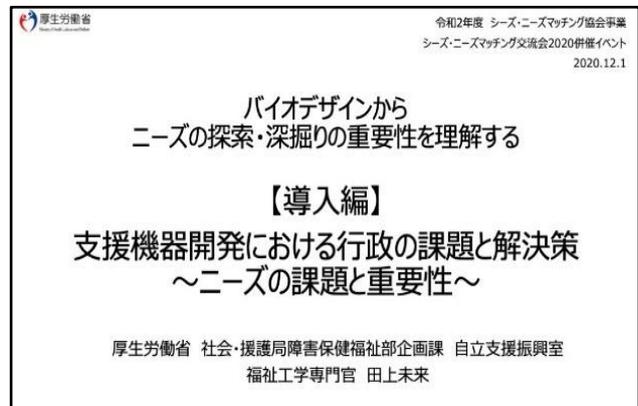
【実施結果】

導入編参加者数：42名

実用編参加者数：20名

参加者の多くは開発メーカーでありその他、大学、研究機関、行政等様々な職種が参加した。

※) 実用編の対象参加者は原則、導入編を受講した方を対象とした。



【受講者からのコメント】

- ・ これまでも自身が思っていた内容であったが、体系づけとプログラムとして構築されていることがわかり、大きなバックアップとなった。
- ・ 現場ニーズを徹底して洗い出すことで、結果的に開発期間の短縮につながることを理解できた。
- ・ 自分に足りていない”ニーズを原点とするマインドセット”に気づくことができた。
- ・ 製品開発における、現場主義と共感の重要性が大切だと感じた。
- ・ 新規開発においてニーズの大切さを再認識した。自社で開発する上でも教えていただいたメソッドを活かしていきたいと思った。
- ・ 専門家と行政および関係者のプラットフォームの重要性を痛感した。
バイオデザインのフレームワークに対して、定期的に触れ、自分に振り返りをもたらすことが重要だと思うので、今回と同じ内容を定期的に聞きたいと思った。
- ・ 小規模のプロトタイプレベルの開発の支援もしていただけると障害者支援の活動の輪がもっと広がると思った。
- ・ 医療分野の多くは既存技術で十分だという目線を合わせる動機づけになるセミナーが必要と感じた。
- ・ 福祉用具という目の前の題材に対して、デザイン思考の取り入れ方を学ぶことができた。
- ・ 自社だけだとどうしても凝り固まってしまうし、停滞してしまう。最先端の開発手法を学び取り入れていきたいと思った。

(5) A T Aサテライト（意見交換会）の実施結果

①開催のねらい、目的

障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、着想の段階からユーザーや支援者のニーズと開発や研究者等のシーズをマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、各種障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

このような背景を踏まえ、交流会への来場が容易ではない地域に出向き、支援機器に係わる地域の関係者が集う「A T Aサテライト（意見交換会）」を開催することとした。

「A T Aサテライト」では、当該地域の支援機器に関する有識者と障害者及びその介護者をはじめ、産業振興団体や開発企業等が集い、今後開発が必要な障害者の自立支援機器の具体的なイメージを検討することとし、開発促進事業の提案テーマに繋げることにした。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

②実施方法

各開催地で核となる福祉機器の開発や普及に係る有識者を選考し、意見交換会のとりまとめ役を務めていただくこととした。

参加者は、地域の支援機器に係るニーズ側・シーズ側の関係者、地域障害福祉課や産業振興課といった支援機器開発・普及に係る関係者とし、新型コロナウイルス等の感染拡大に伴い10名以内の参加者で行うこととした。原則、各地域で開催することとするが、オンラインによる参加も可能とした。

各会場で2回の意見交換会を開催した。第2回の意見交換会では、最終的に課題解決に向けた具体的な新機器のイメージについて議論をし、12月のWeb開催にて座長より成果発表を行う場を設けた。

また、交流会後は、協会ホームページにも掲載し、提案内容の開発を喚起することとした。

③開催地の有識者と検討テーマについて

開催地は交流会への参加が容易でない地域を基本とし、特定の地域に隔たりが生じないよう候補地を選考した。また、検討テーマに関しては、これまでに収集した支援機器に関するニーズをもとに、下記の座長と協会決定することとした。

- (1) A T Aサテライト秋田 座長 六平澄人 氏（秋田未来株式会社）
検討テーマ：「降雪時の移動における転倒防止対策」
- (2) A T Aサテライト栃木 座長 伊藤勝規 氏（とちぎノーマライゼーション研究会）
検討テーマ：「豊かな人生を支えるための福祉用具」

④開催地の有識者と検討テーマについて

交流会専用HPにA T Aサテライト開催の案内を掲載し、開催地の有識者の方々より、開発企業や障害当事者、地域の県・市への呼びかけを行った。

⑤スケジュールと検討事項について

時期		検討事項等
9月	これまでのニーズを踏まえ、検討テーマを予め決定する。	
10月	第1回	①目的の共有化 ②障害者の置かれている状況の把握 当事者・家族等の困りごと、あって欲しい機器・システム ③課題解決に向けた機器開発の検討 既存の技術等を活用した機器開発のイメージ
11月	第2回	④課題解決に向けた具体的な支援機器のイメージの検討 タイトル、想定するユーザー、解決すべきニーズ 機器のイメージ、満たすべき仕様・機能
12月	成果報告	シーズ・ニーズマッチング交流会（Web開催）において、各ATAサテライトの成果報告を行う。 もって、東京会場に向けて開発企業とのマッチングを図る
		2日 ATAサテライト・栃木 伊藤勝規 氏 3日 ATAサテライト・秋田 六平澄人 氏

⑥成果のアウトプット様式（例）

成果は以下の様式に取りまとめることとした。

タイトル * * * * * 想定するユーザー * * * * * * * * * *	解決すべきニーズ *
機器やシステムのイメージ	満たすべき仕様・機能 * * * * * * * * * * * * * * *
ATAサテライト参加者 ※参加者によっては公表しない *	

⑦開催結果及び参加メンバー

各会場の日程及び参加メンバーは以下のとおりである。

会場に関しては、座長をはじめ、障害者及び関係企業等と相談の上、栃木開催は現地にて開催し、会場入室時には体温測定、手指のアルコール除菌を行い、十分な間隔及び定期的な室内の換気を行い、感染対策を講じて実施した。

秋田開催は現地のメンバー以外はオンライン参加とした。

A T Aサテライト栃木	
日時：第1回 令和2年10月28日（水）13：30～15：30 第2回 令和2年11月18日（水）13：30～15：30 会場：とちぎ福祉プラザ 会議室 検討テーマ：「豊かな人生を支えるための福祉用具」	
<u>座長</u> ・NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会	（順不同）
<u>ニーズ側</u> ・障がい当事者ご家族 ・栃木県車いすの会 ・特定非営利活動法人 自立生活センターとちぎ ・居宅介護支援事業所 真心	
<u>シーズ側</u> ・オプトニカ工房有限会社 ・株式会社シンデン ・シンテックス株式会社 ・オノオフィス	
	計14名

A T Aサテライト秋田	
日時：第1回 令和2年10月29日（木）14：00～16：00 第2回 令和2年11月19日（木）14：00～16：00 会場：由利本荘地域生活支援センター 会議室 ※）協会はオンライン参加 検討テーマ：「降雪時の移動における転倒防止対策」	
<u>座長</u> ・秋田未来株式会社	（順不同）
<u>ニーズ側</u> ・障がい当事者 ・由利本荘地域生活支援センター ・秋田県社会福祉事業団	
<u>シーズ側</u> ・あきた企業活性化センター	
	計8名

⑧成果

各会場の成果は以下のとおりである。

A T A サテライト 栃木

タイトル：安心・安全・快適・気軽に、公共交通機関を利用するための、車いす固定装置

～ みんなで考えよう支援機器の開発 ～

障害当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）



<p>■ 想定するユーザー（状態像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 車いすを利用する障がい者、高齢者、およびその介助者で、路線バスでの移動により、社会参加を行う人 ➢ 乗車後、バスの座席に移乗せず、車いすのまま移動する人 ➢ 車いすは、自走用・介助用、標準型・座位変換型、手動・電動を問わない 	<p>■ 解決すべき課題・ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 既存の車いす固定装置は、取り扱いに時間がかかりバスの定時運行を阻害するなどから、車いすユーザーが利用をためらう状況がある ➢ 操作者は、多種の車いすに対応する必要がある一方、操作経験の不足から、不適切な操作で固定が不十分であったり、車いすを破損してしまう事象も起こっている
---	--

課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）

<p>■ 機器やシステムのイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 専用スペースの確保 ➢ 固定装置の自動化の程度によりレベル1～3を設定 ➢ 車いす側の固定箇所を標準化（位置・形状・強度・表示など） ➢ 緊急時対応（非常時固定解除・インターホンなど） 		<p>■ 満たすべき仕様・構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 共通仕様～専用スペース、固定ベルト等の自動調整、固定箇所の明示、緊急固定解除、インターホン、降車ボタン、身体の揺れに備えたパッド等 ➢ レベル1～運転手によるベルト掛けとボタン操作で固定が完了、バス停止から、車いす乗客乗車後の発車まで5分以内 ➢ レベル2～本人または介助者による同様の操作で、同4分以内 ➢ レベル3～本人または介助者のボタン操作のみ（他は自動化）で、同2分以内
<p>■ 栃木 A T A サテライトのメンバー（敬称略）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座長 伊藤勝規（とちぎノーマライゼーション研究会） ・当事者 飯野展・八重子（家族）、武田美代子（家族）、村上八郎（栃木県車いすの会） ・研究開発 若倉茂弘（オプトニカ工房）、八木仁・小柳亜美（シンデン）、瀧口修一（シンテックス）、尾野哲（技術士・中小企業診断士） ・支援者 斉藤康雄（自立生活センターとちぎ）、大島洋子（理学療法士・ケアマネジャー） ・記録・事務 伊沢和子（とちぎノーマライゼーション研究会） 		

The Association for Technical Aids(ATA)

支援機器のイメージ

【求める性能】	レベル1	レベル2	レベル3
操作者	運転手等	介助者（本人）	介助者（本人）
操作内容	車いすの所定箇所にベルトをかけた後、ボタン操作で固定	車いすの所定箇所にベルトをかけた後、ボタン操作で固定	所定場所に車いすを停止した後、ボタン操作で固定
所要時間 (停止から出発まで)	5分以内	4分以内	2分以内



【仕様・構造】	
<p>車いす専用スペース</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 座っている乗客に席を立ててもらったことで気が引けて利用をためらわないように 	<p>前方・側方パッド・ヘッドサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 走行時の揺れにより体幹が不安定になった際にも安全を確保する ➢ 必要に応じて3点式シートベルト着用
<p>車いす側固定箇所の規格化</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 位置・形状・強度・表示方法 ➢ 適切な固定が出来ない車いす用に、後付け固定パーツを開発 	<p>介助者用操作ボタン</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 固定ボタン ➢ 解除ボタン ➢ 非常時固定解除ボタン
<p>本人用操作ボタン</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 固定ボタン ➢ 解除ボタン ➢ 非常時固定解除ボタン ➢ チャイルドロック（操作不可設定） ➢ 降車ボタン ➢ インターホン（運転手と通話） 	<p>前方固定ベルト（レベル1・2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 床下内蔵、長さ自動調整
<p>後方固定ベルト（レベル1・2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 引っ張り強さ自動調整（ボタン操作） 	<p>全自動固定装置（レベル3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ボタン操作のみで、車椅子を固定 ➢ ベルト固定にはこだわらない（車輪の固定など）

技術革新を求める背景

2022年、LRT（路面電車）開業



基幹線としてLRTを整備し、LRTに置き換わるルートを走るバスを市内全域に割り振ることで、本数やコースを増やす。LRTとバスが連携することで、公共交通での市内移動がスムーズになる。

→ 乗り換えの増加に伴う、車いす固定回数の増加



参考・出典：MOVE NEXT（ムーブネクスト）うつのみや公式ウェブサイト

自動運転バスの実現が間近



2020年11月26日、茨城県境町が自動運転バスの定時・定路線運転を開始

公共交通の維持は、高齢化人口減少時代を迎えた地方都市に共通する課題。地域内交通の切り札として、自動運転バスに期待が集まっています。

→ 運転手のいないバス、車いす利用者の乗降や、車いすの固定はだれがサポートするの？

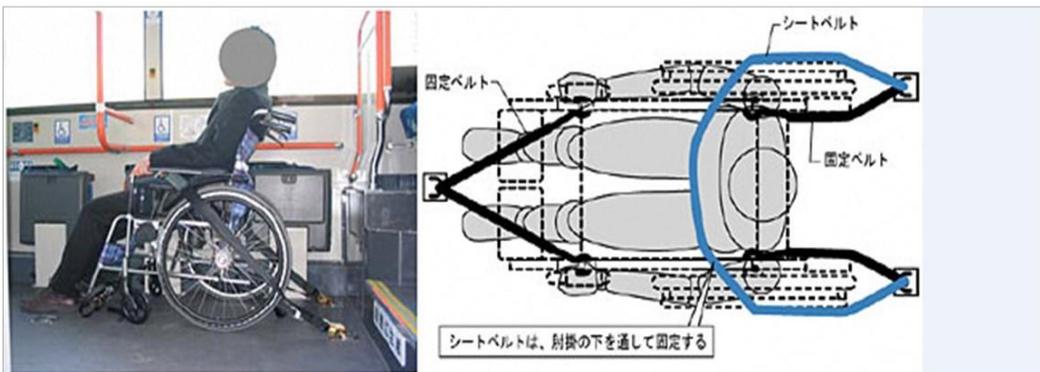
参考・出典：境町ホームページ

車いす固定装置が今のままでは、車いすユーザーは移動難民になりかねない！



技術革新を求める背景

LRTの車いす固定装置（イメージ）



固定の際には、必要に応じて運転士が介助
車いすの固定につきましては、バスとは異なり任意と
安全管理のため、車内のアナウンス等により車いすのブレーキを呼びかけるなど注意喚起を行う

提供：宇都宮市 建設部 LRT企画課 協働広報室



解決すべき課題・ニーズ

車いすユーザーが利用をためらう状況がある

- 車いす乗車スペースには折りたたみいすが常設されており、先に座っている人を立たせてしまう。
- 乗車と車いす固定に時間がかかり、定時運行を妨げてしまう。
- ほかの乗客に迷惑をかけていると感じる。
- 運転手が不慣れで対応を嫌がる。

▽車いす専用スペースの例（ロンドン）



ブログ「英国だより」より承認を得て転載
http://hirokowright.blogspot.com/2013/09/blog-post_25.html

▽新幹線の新たなバリアフリー対策



「真の共生社会」に相応しいあるべき新幹線の姿として、車いす用フリースペースを導入
出典：国土交通省ガイドラインより

車いすを破損してしまう事象も起こっている

- 誤った箇所へのベルト固定。（適切な固定箇所が存在しない車いすもある）
- 過剰な締めつけ強度。

▽固定力の過剰が原因と思われるキャスターの変形



- 多種多様な車いすがあるにもかかわらず、固定については標準化・規格化がなされていない。
- 操作者である運転手も、多様な車いすの存在を前提にした教育研修がなされていない。



タイトル：降雪時の移動における転倒防止対策

～ みんなで考えよう支援機器の開発 ～

障害当事者の置かれている状況（課題・ニーズ）

■ 想定するユーザー（状態像）

住居から利用施設間をバスや車などの送迎車を利用する障がいのある人達

■ 解決すべき課題・ニーズ

課題：冬期間における屋外での移動に関する困りごと

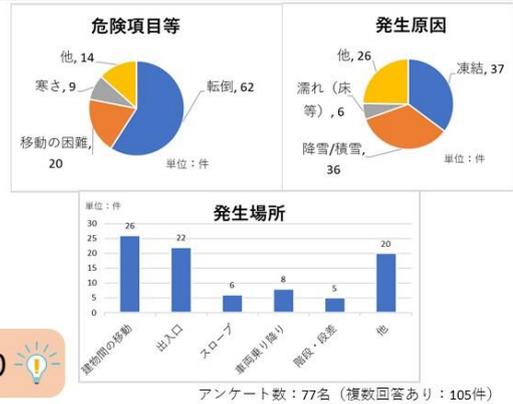
ニーズ：転倒防止に役立つ機器や設備について

アンケートを元に

バスや車などから降りる時に、介助者の方に手を添えてもらえるだけで安心

何かに掴まることで安心を得られることから「手すり」は重要なもの

提案：送迎車用手すり



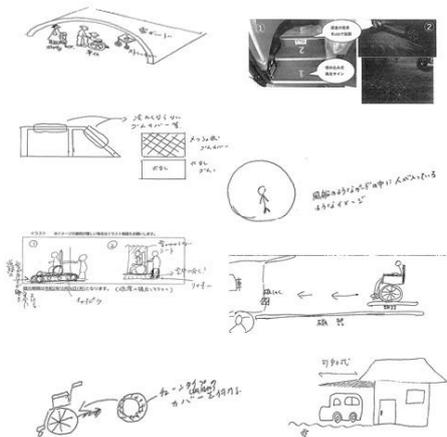
The Association for Technical Aids(ATA)

課題解決に向けた提案・アイデア（シーズ）

■ 満たすべき仕様・構造

- 取手部が濡れると滑る冷たい
 - 材質検討
 - 耐久性のあるプラスチック
 - もしくは、ステンレス製の樹脂コーティングなど
- 衛生面
 - 汚れが落ちやすく、アルコール消毒にも対応可
- 利用者
 - 麻痺によって左右どちらにも取り付けれるように
- シンプルで安価
- オプション
 - 乗車口付近の路面温度が分かるように
 - ※ 凍っている場合は警告音や警告灯で知らせる
 - 乗車口ステップ部分や路面を照らすライトや路面の凹凸が分かる光を当てる
 - ステップや段差が分かりやすいような目印や光

アンケート内の記載されていた
アイデア（参考）

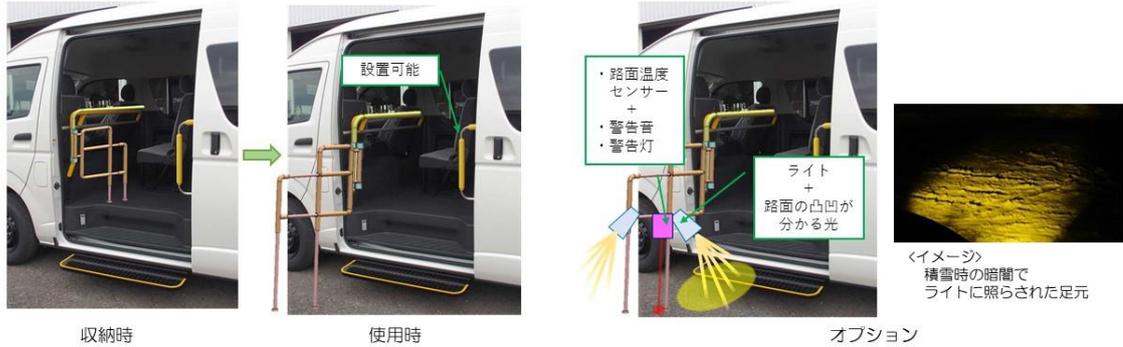


The Association for Technical Aids(ATA)

課題解決に向けた提案・アイデア (シーズ)

■「手すり」のイメージ

「後付け」「延長」「簡単に設置や片付け」「安全性(信頼性)」



■ 秋田ATAサテライトのメンバー

- ・座長：秋田未来(株) 六平澄人
- ・(公財) テクノエイド協会 企画部
- ・(福) 秋田県社会福祉事業団 事務局
- ・(福) 由利本荘市地域生活支援センター 管理支援課
- ・(福) 秋田県心身障害者コロニー 管理課
- ・(公財) あきた企業活性化センター
- ・障がい当事者
- 他：アンケート協力者77名

The Association for Technical Aids(ATA)

< A T A サテライト 栃木の様子 >



< A T A サテライト 秋田の様子 >

ATAサテライト秋田 意見交換会

<テーマ>
**降雪時の移動における
転倒防止対策**
※アンケート回答数：77枚

主催：(公)テクノイド協会
協力：(社)秋田県社会福祉事業団
会場：由利本荘地域生活支援センター
座長：秋田未来(株) 六平

2020年11月19日

zoom_0

zoom_0

⑨成果物の周知

Web開催の併催イベントの一つとして「ATAサテライトによる成果報告」を設け、座長より各会場での成果報告を行った。また、交流会専用HPに会場の成果物を掲載することとし、開発を喚起するとともに地域のサテライトに繋ぐこととした。

<専用HPによる成果の周知>

12月2日(水)		
主なイベント	時間帯	内容
1. 特別講演	10:30~11:30 (60分)	生活を支える活動支援機器、特にロボットの開発 藤田医科大学 学長 才藤 栄一 氏
2. 支援機器の開発及び利用報告	11:40~12:10 (30分)	運転補助装置を自ら設計開発 小島式アクセルアシスト装置 小島 一朗 氏
	13:00~13:30 (30分)	「ただの棒ではありません！自立支援用すりすり『ラ・クリップ』」 株式会社東海技研工業 安江 宏 氏
3. 事務局だより	13:40~14:10 (30分)	webを活用した意見交換の進め方 テクノエイド協会 五島清国
4. ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談	15:20~15:40 (20分)	全国脊髄損傷者連合会 安藤 信哉 氏
	15:50~16:10 (20分)	日本ALS協会 岸川 忠彦 氏
5. ATAサテライトによる成果報告	16:20~16:40 (20分)	こんな福祉機器の開発を！ ATAサテライト(栃木県)報告 とちぎノーマライゼーション研究会 座長 伊藤隆規 氏

12月3日(木)		
主なイベント	時間帯	内容
1. 特別講演	10:30~11:30 (60分)	支援機器開発に求められるもの 静岡県立大学 教授 石川 准 氏
2. 支援機器の開発及び利用報告	11:40~12:10 (30分)	携帯版、直感的なタッチで会話を楽しむ 株式会社日立ケーイーシステムズ 松浦 美紀彦 氏
	13:00~13:30 (30分)	タブレット版「運転基礎能力トレーニング」が目指すもの 株式会社PRIDIST 三田村 もな美 氏
3. 事務局だより	13:40~14:10 (30分)	自立を支援する自助具 テクノエイド協会 宇田川竜吾
4. ニーズの発信と支援機器活用の好事例と失敗談	15:20~15:40 (20分)	ポリオの会 小山万里子 氏 丸橋 達也 氏
	15:50~16:10 (20分)	日本失語症協議会 園田 尚美 氏
5. ATAサテライトによる成果報告	16:20~16:40 (20分)	こんな福祉機器の開発を！ ATAサテライト(秋田県)報告 秋田未来株式会社 座長 六平澄人 氏

[↑上に戻る](#)

(6) 参加人数及びアンケート結果

①出展企業等の状況（3会場）

Web開催及び東京開催は同一の出展者とした。

区分	出展数
令和2年度 障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業	9
身体障害(肢体不自由)	27
視覚障害	7
聴覚障害	2
高次脳機能障害(失語症等)	2
精神障害(発達障害を含む)	0
障害児(身体・知的・精神)	3
障害者団体・開発支援団体	13
計	63

②参加者の状況

a. 交流会登録者数

	合計
東京開催終了時の登録者数	600名

※登録重複者は除く

b. 各ページの閲覧者数

	Web開催(12/1-4)	東京開催(2/9-10)	合計
ログイン後トップ画面	590名	239名	829名
講演プログラム一覧	303名	26名	329名
出展企業・団体一覧	154名	—	154名

※同一端末での複数回表示のカウントは除く

③来場者アンケート回答数の結果

本交流会の来場者に行ったアンケート結果は、以下のとおりである。

	回答数
Web開催	63件
東京開催	54件
全体	117件

④Web開催及び東京開催の来場者アンケート結果（合算）

a. 来場者の属性

N = 117

I. あなた自身について伺います		回答数	割合
当てはまる項目を選択してください	1. 障害者	10	9%
	2. 障害者家族	5	4%
	3. 施設関係者	6	5%
	4. 医療関係者	12	10%
	5. 支援機器開発企業	19	16%
	6. 行政	8	7%
	7. 研究機関・団体	14	12%
	8. 学校・教育関係者	4	3%
	9. 一般企業	32	27%
	10 その他	7	6%
合計		117	100%

「一般企業」、「支援機器開発企業」、「研究機関・団体」の順にアンケート回答者が多かった。その他は、当事者を支援する支援団体やボランティアグループであった。

b. 居住地について

N = 117

		回答数
お住まいはどちらですか	北海道	1
	福島県	1
	茨城県	2
	群馬県	1
	埼玉県	5
	千葉県	9
	東京都	28
	神奈川県	8
	長野県	1
	岐阜県	3
	静岡県	2
	愛知県	10
	三重県	1
	滋賀県	2
	京都府	2
	大阪府	11
	兵庫県	3
	鳥根県	1
	鳥取県	1
	岡山県	1
	広島県	2
	山口県	5
	愛媛県	1
	香川県	2
	福岡県	9
	長崎県	3
未回答	2	
合計		117

東京都、愛知県、大阪府の順に回答が多かった。

c. 交流会開催の情報収集源（複数回答可）

II. 交流会(こうりゅうかい)についてうかがいます		回答数
この交流会のことをどのように知りましたか（1～9）	1. テクノエイド協会からの案内	68
	2. テクノエイド協会のHP	24
	3. 所属する障害団体からの案内	10
	4. 経済振興団体からの案内	3
	5. 所属する職能団体からの案内	6
	6. 自治体などからの案内・広報誌など	1
	7. 友人・知人からの紹介	27
	8. 新聞・テレビ・ラジオなど	1
	9. その他	9

「テクノエイド協会からの案内」の割合が多く、次いで「友人・知人からの紹介」、「テクノエイド協会HP」を見て来場されていた。

d. 来場の目的（複数回答）

		回答数
どのような目的で交流会へ ご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、 企業に伝えたかった	10
	2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	28
	3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	2
	4. 普段困っていることについて相談したかった	10
	5. その他	40

「機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった」が多く、「その他」と記入された方の中には、「オンラインになって参加が可能となったため」、「紹介されている機器に興味があった」、「活動内容の把握と機会発見の為に閲覧した」、「どのような開発が進んでいるのか」、「講演を見るため参加した」等であった。

e. 好評であったWeb開催における併催イベント（上位8位、複数回答）

		回答数
併催イベントの中で特に良かったのは どれですか	障害者自立支援機器開発における現状と課題	18
	支援機器開発に求められるもの	13
	ニーズを踏まえた支援機器開発	11
	生活を支える活動支援機器、特にロボットの開発	10
	支援機器開発における行政の課題と解決策 ～ニーズの 課題と重要性～	10
	webを活用した意見交換の進め方	10
	歩行・起立着座・階段昇段をアシストする“着る”ロボッ トcurara	9
	基調講演1 パイオデザインにおけるニーズ探索手法	9

厚生労働省「障害者自立支援機器における現状と課題」、特別講演「支援機器に求められるもの」、特別講演「ニーズを踏まえた支援機器開発」の順の結果であった。

f. 好評であった東京開催における併催イベント（上位8位、複数回答）

		回答数
併催イベントの中で特に良かったのは どれですか	3Dプリンティング技術を活用した協同型支援機器提供システムの 取組み	14
	NEDO福祉事業のご紹介 ～福祉用具実用化開発の支援～	9
	下肢切断者のモビリティを向上させるパワード義足膝継手の開発 多様な個別性に対応した自助具製作について	9
	交通制約者に優しい自動運転バスに係る基礎調査 障害者等に配 慮した自動運転バスの提案	9
	視覚障害者のIoT化と情報共有クラウドによる移動支援システムの 開発	8
	網膜投影型視覚支援機器の開発	8
	障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手 と自助具	7

特別イベント「3Dプリンティング技術を活用した協同型支援機器提供システムの取組み」、「NEDO福祉事業のご紹介～福祉用具実用化開発の支援～」、成果報告会「下肢切断者のモビリティを向上させるパワード義足膝継手の開発」、特別イベント「多様な個別性に対応した自助具製作について」が多かった。

g. どのような方法で交流をしたか

N=117

	回答数	
どのような方法で交流しましたか	1. 電話・メールのみでやり取りした	9
	2. Zoomでやり取りした	20
	3. その他	12
	未回答	76

h. 来年度もWeb開催に参加したいか

N=117

	回答数	
来年度もWeb開催とした場合、 参加したいと思いますか	1. ぜひ参加したい	49
	2. 参加したい	34
	3. どちらともいえない	21
	4. 参加したくない	5
	5. 全く参加したくない	0
	未回答	8

「ぜひ参加したい」、「参加したい」の回答が多くあり、全体の7割近くが交流会に参加したい結果となった。

i. Web交流ではどのような交流をしたか（自由記述）

- ・ 支援機器について情報交換ができた。
- ・ メールでのやり取りで時間の調整上、オンライン交流は後日となった。
- ・ オンラインの交流はしなかったが、詳細な製品情報について出展者に連絡を取り、資料送付をしてもらった。
- ・ 動画の視聴のみで交流はしなかった。
- ・ 出展者が不在となっていたため、交流ができなかった。
- ・ 出展機器に関しての質問があったが、業務上Zoomの使用が制限されており、メールでやり取りを行った。
- ・ 困っている内容が特殊機器の開発であるため交流できなかった。等

j. Web交流ページで良かった点、改善すべき点（自由記述）

① 良かった点

- ・ 好きな時間で参加できるのはWeb開催の強みだと感じた。
- ・ 出入り自由だったので合間を縫って参加ができた。
- ・ テーマが多く選択して聴講ができた。
- ・ サイトが分かりやすく出展者の動画も充実していた、他のWeb展示会でもここまで作り込みできていないのではないかと。
- ・ 情報収集においては充実した内容であった。
- ・ 紹介動画を見ることで短時間におおよその製品の情報を得ることができた。等

② 改善すべき点

- ・ 交流の事前予約ができると良い。

- ・ 事前にメールや電話をするのであれば、Z o o mで交流する必要が無いのではないかと思った。チャットのような機能を使って、その場で気軽に話しかけられる方が交流をしやすい。
- ・ Z o o mでの交流はみがまえてしまう。まずは、伝言板のようなものでやり取りできる仕組みが良いのではないか。投稿内容をオープンにして書き込みやすい環境を作るとさらに書き込みしやすくなるのではないか。
- ・ Z o o mにうまく接続できなかった。
- ・ 講演者へチャットでもいいので質問をしたかった。
- ・ 講演資料を事前にいただけるとありがたい、質疑応答ができると良い。
- ・ 講演はアーカイブして一定期間は閲覧できることを望む。等

k. 交流会全般に関するご意見（自由記述）

- ・ 有用な場となった、来年も期待している。
- ・ 非常によく準備されていた、W e bでの参加で問題はなかった。開催後のフォローアップも考慮されていると感じた。
- ・ 初めてのオンライン交流会であったが、多くの情報が得られて驚いている。特に製品紹介の動画が良かったが、もう少し専門的な内容や、他者との比較なども紹介いただけるとありがたい。
- ・ W e b開催だと移動時間を気にせず参加することができた。コロナが収束しても実会場とW e b開催の併用が良いのではないか。
- ・ 平日は仕事で参加できない、土日開催を希望する。
- ・ 平日の昼間だけでなく夜の部も増やして欲しい。
- ・ 新たな形の交流会で貴重な体験となった。しかし、福祉用具は現物を触ってみたい。等

⑤出展者アンケート回答数の結果

本交流会の来場者に行ったアンケート結果は、以下のとおりである。（3月4日現在）

	回答数
Web開催	52件
東京開催	39件
全体	91件

⑥Web開催及び東京開催の出展者アンケート結果

a. 出展者の内訳

Web開催

N=52

I. 貴社または貴団体についてうかがいます		回答数	割合
当てはまる項目に○をつけてください（1～10）	1. 開発企業	32	62%
	2. 障害者団体	8	15%
	3. 開発支援団体	3	6%
	4. 職能団体	0	0%
	5. その他	9	17%
	合計	52	100%

東京開催

N=39

I. 貴社または貴団体についてうかがいます		回答数	割合
当てはまる項目に○をつけてください（1～10）	1. 開発企業	25	64%
	2. 障害者団体	6	15%
	3. 開発支援団体	3	8%
	4. 職能団体	0	0%
	5. その他	5	13%
	合計	39	100%

b. 過去の参加状況

東京開催

N=39

過去の参加状況について教えてください ※テクノイド協会主催（2014年度～2019年度の6回）についてご 回答ください	過去全て参加している	9
	過去5度参加している	3
	過去4度参加している	3
	過去3度参加している	6
	過去2度参加している	3
	過去1度のみ参加している	6
	今回初めて参加した	9

c. 交流人数

Web開催

N=52

II. 来場者との交流についてうかがいます		回答数	割合
交流を行った人数について教えてください ※電話、メールのみのやり取りも含みます	0人	30	58%
	1～5人	20	38%
	6人～10人	1	2%
	11人以上	1	2%

Web開催終了から東京開催終了まで

N=39

II. 来場者との交流についていかがですか		回答数	割合
12月5日（Web開催終了後）～2月10日までに 交流を行った人数について教えてください ※電話、メールのみのやり取りも含みます	0人	19	49%
	1～5人	16	41%
	6人～10人	2	5%
	11人以上	2	5%
	合計	39	100%

ほとんどの出展者が交流人数は0人もしくは1～5人という結果であった。

d. 交流内容について

Web開催

N=52

		回答数
交流の具体的な内容について教えてください (複数回答可)	1. 機器に対する要望や改善点が聞けた	7
	2. 日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	11
	3. 今後の具体的な開発協力や連携に関して話 ができた	5
	4. 自社や自団体の活動や取り組みについて理解 が深められた	4
	5. その他	11

「日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた」が多く、その他としては「会期後の交流予定となった」、「取材を受けた」、「交流できなかった」等であった。

東京開催

N=39

		回答数
交流の具体的な内容について教えてください (複数回答可)	1. 機器に対する要望や改善点が聞けた	10
	2. 日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	7
	3. 今後の具体的な開発協力や連携に関して話 ができた	5
	4. 自社や自団体の活動や取り組みについて理解 が深められた	6
	5. その他	11

「機器に対する要望や改善点が聞けた」が比較的多く、その他としては「試用申し込みがあった」、「他社や他団体の取組を知る機会となった」等であった。

e. 有意義な交流ができたか

東京開催

N=39

その後の機器開発や団体の活動において 有意義な交流ができましたか ※上記で1～6を選択した方	大変有意義であった	4
	ある程度有意義であった	16
	どちらともいえない	10
	あまり有意義でなかった	5
	有意義でなかった	2
	未回答	2

回答の多くが「ある程度有意義であった」、「どちらともいえない」との回答であった。

f. 障害者自立支援機器等開発促進事業の応募について

東京開催

N=39

交流会参加を通して 「障害者自立支援機器等開発促進事業」など、 国の開発補助事業に応募してみたいと思いましたが	是非、応募したい（応募を検討したい）	5
	応募してみたい（応募を検討してみたい）	21
	どちらともいえない	13
	補助事業に関心はない	0

回答の多くが「是非、応募してみたい（応募を検討したい）」、「応募してみたい（応募を検討してみたい）」その回答であり、全体の6割以上となった。

g. 満足度について

Web開催

N=52

	回答数	
Web開催での交流会の満足度を教えてください	1. 大変満足している	1
	2. ある程度満足している	7
	3. どちらとも言えない	17
	4. あまり満足していない	14
	5. 全く満足していない	8
	0. 未回答	5

回答の多くが「どちらとも言えない」、「あまり満足していない」との回答であった。

東京開催

N=52

	回答数	
Web開催での交流会の満足度を教えてください	1. 大変満足している	0
	2. ある程度満足している	8
	3. どちらとも言えない	9
	4. あまり満足していない	13
	5. 全く満足していない	7
	0. 未回答	2

回答の多くが「どちらとも言えない」、「あまり満足していない」との回答であった。

h. 具体的な交流内容（Web開催及び東京開催合算、自由記述）

- ・ 当社が思い浮かばなかったニーズを別の視点から頂くことができた。
- ・ 以前の研究モデルとの差分について今後の展開について。
- ・ 開発中のプロトタイプについてご意見をいただいた。東京会場で体験していただくこととした。
- ・ 出展したシステムから派生で「こんなことができないか」と次につながる機能ご意見をいただいた。
- ・ 日常生活用具の申請に関する相談、現行バージョンについての問題点について。
- ・ 別の開発メーカーから協力の打診があった。
- ・ 実際に実物を見て説明を受けたいと言われたが、お会いすることができていない。
- ・ 出展機器に興味がある方ではなかったが、日ごろの悩みを解決できないかと相談を受けた。
- ・ 視覚障害者の為、Zoomでなく電話でやり取りが済んだ。

- ・ 用意いただいたZoomで交流をしたが、難聴の為、補聴器や手話やチャットを駆使して交流をした。ネット上の交流の難しさを感じる意見が多かった。
- ・ 直接交流はできなかったが、会期後以降に交流を行うことになった。等

i. Web交流ページで良かった点、改善すべき点（Web開催、自由記述）

① 良かった点

- ・ 普段は展示ブースにいるため、発表を聴講できたことは良かった。
- ・ 出展機器一覧が見やすかった。
- ・ 今回のように展示会がWeb形式となったことで、映像コンテンツの用意やリモート会議でのデモや交流の準備ができたことは、よかった点である。
- ・ アイコンをクリックしやすいように大きくしてあるのは良かった。各社・団体のHPもあると良いのではないか。
- ・ あらかじめ準備した各出展企業・団体の動画を見ることができたことはよかったと思う。それが、理由で来場者からのアプローチもなかったのかもしれないとも考える。

② 改善すべき点

- ・ 視覚障害当事者へのアクセスは非常に困難であり健常者がアシストする必要があった。Web会場へアクセスできない連絡が電話であった。
- ・ 出展ページに何人が閲覧したか、リアルタイムで表示できると良い。
- ・ Web上で取り組みをアピールできたことは良かったが、面談形式の交流だとしても身構えてしまうため、意見箱のようなものでまずは文章のやり取りから始める仕組みが気軽ではないか。
- ・ 在籍、離席の状況を切り替えるのが手間、分かりにくかった。簡単に切り替えられると良い。
- ・ Zoomの入り方が複雑で分かり難かった。

j. 交流会全般に関するご意見（Web開催及び東京開催合算、自由記述）

- ・ 今までのような対面で行う展示会と違いオンラインによる利点や課題点を知ることが出来たので非常に興味深い経験ができた。
- ・ 障害者自立支援機器等開発促進事業の成果報告会においても、質疑応答の時間があると、交流しやすいかと思う。
- ・ もう少し長めに準備期間がほしかった。Web形式にしたことで、来場できない当事者と接点を持つことができると期待している。協会団体や患者会など、広報による周知の強化が必要だと考える。
- ・ デイリーに日別、累計でどれくらいの人がWeb会場を訪れたのか等のフィードバックがあれば良かった。

(7) 今後の交流会の在り方について

①今年度の振り返り

今年度は新しい交流様式として、Web開催を計画しWeb開催を通して会場開催に繋げることを計画していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により当初予定していた、会場開催を急遽、Web開催に変更することとなった。

Web開催の利点としては、入退出自由、都合の良い時間に参加でき、会場までの移動時間等の節約にメリットがあるが、初めての試みということもあり、開催までにHPの構築や動画コンテンツの作成等、その他の事前準備に時間を要するとともに、講演のリアルタイム配信時には、通信環境の不具合により配信が滞ってしまうケースも生じてしまった。

一方、アンケートでは、予想以上の情報量を得ることができた、サイトが分かりやすく出展者の動画も充実していた、遠方でも参加することができた等の声も見られた。その他、支援機器の実物を見たり、触ってみたいという意見も多く、Web開催の要望も多々見受けられ、今後は会場開催とWeb開催のハイブリット開催が望まれるところである。

出展者及び来場者ともにオンラインの環境での交流が不慣れであったという点もあるが、今年度の反省を生かし、障害当事者の方々がアクセスしやすいHPの作成、Web交流プラットフォームの構築を引き続き行っていきたい。

②今後の方策について

多くの方々に「シーズ・ニーズマッチング交流会」の認知を広めることが来場者を増やすことにつながるため、会場開催とWeb開催のハイブリット開催を計画することが望ましい。また、多くの方々に参加していただく方策として、開催地域や障害当事者の方々が来場しやすい会場とするとともに、職能団体等の学会や障害者福祉に係る地域のイベントなどと連携して交流会を開催することも、予算を有効に活用し参加者を増加させる一つの方策として考えられる。

引き続き、障害当事者団体とは連携を図り、当事者・家族、関係者の皆様へ本交流会への参加を呼びかけるとともに、シーズとニーズのマッチングにご協力いただきたい。

③今後の交流会等の在り方について

1. 学会や地域のイベント等と連携した交流会の開催

- 学会など多くの医療・福祉の従事者、エンジニアや研究者等の会員が集まる学術大会などと連携して、シーズ・ニーズマッチング交流会を開催することで、多くの来場者の集客が見込めるのではないかと。

2. 開催方式について

- アンケート結果では、Web及び会場開催の併催を希望する声が多かった。
- オンライン開催は初の試みということもあり、配信トラブルが生じたが、今年度の教訓を生かし、次年度もWebと会場の併催を検討してはどうか。